

# 2019 年度 国際連携部門 事業報告書

---

**和歌山大学**  
**国際連携部門**



国立大学法人

**和歌山大学**



## 目 次

<b>【 1 基幹事業概要】</b>	
（1）海外大学との交流締結状況	2
（2）教職員短期派遣報告	4
（3）交換留学生 受入状況	5
（4）交換留学生 派遣状況	5
（5）その他学生 受入状況	5
（6）日本語・日本文化研修留学生（日研生） 受入状況	5
（7）その他学生 派遣状況	6
（8）新入留学生歓迎交流会	6
<b>【 2 日本語・日本文化教育関連事業報告】</b>	
（1）日本語クラスについて	8
（2）第 11 回作文コンクール	9
（3）第 17 回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト	10
（4）留学生の研究発表会	11
（5）日本文化入門	11
（6）日本人学生と留学生との交流	11
（7）日本語教育関連イベント	12
<b>【 3 海外短期派遣プログラム】</b>	
（1）オーストラリア カーティン大学	15
（2）ASEANプログラム タイ	16
（3）ASEANプログラム インドネシア	17
（4）ASEANプログラム 3大学合同教育プログラム	18
<b>【 4 その他交流事業】</b>	
（1）多言語サロン	20
（2）留学生地域交流（派遣・受入）	21
国際連携部門年間事業実績一覧	22
国際連携部門教職員一覧	23

# 【 1 基幹事業概要】

## (1) 交流協定締結状況

2019年度は、新たに下記の3大学と交流協定を締結しました。

国名	大学名	締結日
中華人民共和国	福建師範大学	2019年9月17日
ウズベキスタン共和国	ウズベキスタン国立世界言語大学	2020年2月18日
	タシケント国立経済大学	2020年2月19日

2019年度末（2020年3月31日現在）において、下記の大学と協定を締結しています。

	国名	大学名
1	大韓民国	慶北大学校
2	ベトナム社会主義共和国	ホーチミン市師範大学
3		ハノイ国家教育大学
4		ダナン工科大学
5	中華人民共和国	浙江師範大学
6		山東師範大学
7		山東大学
8		吉林大学
9		東北財経大学
10		首都師範大学
11		華東師範大学体育健康学部
12		山東財経大学
13		東北大学
14		西安交通大学
15		鄭州大学
16		福建師範大学
17	フランス共和国	トロワ工科大学
18		コンピエーニュ工科大学

19		ベルフォール・モンベリヤール工科大学
20		パリ大学
21		オーデンシア・ビジネススクール
22	スペイン王国	サラゴッサ大学
23		サンディアゴ・デ・コンポステーラ大学
24	アメリカ合衆国	西フロリダ大学
25		ウイスコンシン大学 ミルウォーキー校
26		ブリッジウォーター州立大学
27	グアテマラ共和国	サンカルロス大学
28	オーストラリア連邦	カーティン大学 カーティン・ビジネス・スクール カーティン言語・異文化教育スクール
29		デイキン大学
30	タイ王国	カセサート大学
31	インドネシア共和国	ガジャマダ大学
32		ビナ・ヌサンタラ（ビヌス）大学
33	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学
34	フィリピン共和国	フィリピン国立大学
35	英国	セントラル・ランカシャー大学
36	カザフスタン共和国	カザフ国際関係外国語大学
37	ブラジル連邦共和国	グランデ・ドラードス大学
38	クロアチア共和国	オシエク大学
39	ウズベキスタン共和国	ブハラ国立大学
40		ウズベキスタン国立世界言語大学
41		タシケント国立経済大学

## (2) 教職員海外派遣等報告

2019年度は、下記のとおり教職員海外派遣等を実施しました。なお、海外派遣（短期派遣）は3名、外国人研究者の招聘は1名でした。

### 【海外派遣】

〈短期派遣〉

○教育学部・教授 山崎 由可里

内 容： 第二次世界大戦化のドイツにおける障害者殺戮（T4 作戦）に関する資料調査

渡航先： ドイツ

(the Klinikum Bremen-Ost 病院付設、Krankenhaus 資料館、Gedenkstätte Bernburg)

期 間： 2020年2月26日～2020年3月5日

○経済学部・准教授 築田 優

内 容： ヴェトナムにおける技術系スタートアップの産学官連携エコシステム調査

渡航先： ベトナム

(サイゴン大学)

期 間： 2020年2月26日～2020年3月9日

○システム工学部・教授 井伊 博行

内 容： 豪州、ビクトリア州の Deakin 大学との共同研究と協定についての打合せ

渡航先： オーストラリア

(Deakin 大学)

期 間： 2020年2月26日～2020年3月4日

※長期派遣者はありませんでした。

### 【外国人研究者の招聘】

○経済学部・准教授 竹内 哲治

内 容： 資源エネルギー市場取引価格分析に関する共同研究

招聘先： ニュージーランド

(University of Waikato)

招聘者： Mark Holmes 氏

期 間： 2020年1月18日～2020年1月25日

### (3) 交換留学 受入状況

<中国>

<アジア圏（中国を除く）>

<欧米圏>

大学名	受入人数
首都師範大学	2
山東師範大学	3
東北大学	2
浙江師範大学	16
東北大学	1
西安交通大学	2
鄭州大学	22

大学名	受入人数
慶北大学校（韓国）	3
ホーチミン市師範大学（ベトナム）	3
ビナ・ヌサンタラ大学（インドネシア）	3

大学名	受入人数
オーデンシア・ビジネススクール（フランス）	1
パリ大学（フランス）	1
トロワ工科大学（フランス）	1
セントラル・ランカシャー大学（イギリス）	1

### (4) 交換留学 派遣状況

国	大学名	派遣人数
中国	山東大学	2
韓国	慶応北大学校	4
インドネシア	ガジャマダ大学	1
アメリカ	ブリッジウォーター州立大学	1

### (5) 日本語・日本文化研修留学生 受入状況

国	大学名	受入れ人数
中国	山東大学	1
韓国	慶北大学校	1
インドネシア	ガジャマダ大学	1
	ビナ・ヌサンタラ大学	1
ウズベキスタン	タシケント国立東洋学大学	1

### (6) その他学生 受入状況

国	プロジェクト名称等	期間	受入れ人数
中国	山東師範一行来訪	2019. 7. 11	教員 4 名 学生 37 名
ロシア	日露交流プログラム	2019. 11. 7 ~ 11. 8	学生 40 名
アメリカ	南加和歌山県人会子弟	2019. 7. 17	子弟 2 名 引率 2 名
カザフスタン	カザフ国際関係外国語大学教員来学	2019. 9. 13	教員 1 名
ブラジル アルゼンチン	中南米海外移住者子弟と交流プログラム	2020. 1. 28	子弟 2 名 引率 3 名



### (7) その他学生派遣状況

派遣先	プロジェクト名称等	期間	派遣人数
アメリカ	トビタテ！留学 JAPAN	2019. 8. 28～3. 21	1 名
中国	東北大学サマーキャンプ	2019. 7. 6～7. 17	1 名
韓国	慶北大学校サマースクール	2018. 8. 11～8. 24	5 名
タイ	カセサート大学付属学校マルチリンガルプログラム校日本語教育インターンシップ	2019. 11. 1～11. 30	1 名
中国	中日友好大学生訪中団	2019. 12. 20～12. 24	7 名

### (8) 新入留学生歓迎交流会

本学では主に、正規生及び非正規生（研究生、交換留学生、教員研修留学生・日本語日本文化研究留学生等の国費留学プログラム）の留学生が在籍しています。4月と10月に入学する新入留学生のために、国際連携部門では、春と秋に新入留学生歓迎交流会を開催しています。伊東学長をはじめ、クパニ副学長、国際連携部門教職員、指導教員や在来留学生、そして国際交流に興味のある日本人学生といった多くの方々にご参加いただき、新入留学生との親睦を深める機会になりました。

4月には中国、台湾、ベトナム、インドネシア、フランス、タジキスタン、モンゴル、マレーシア、ガーナから、10月には中国、韓国、フランス、イギリス、インドネシア、ウズベキスタンからの留学生を迎えました。



2019年度前期新入留学生歓迎交流会の様子

## 【2 日本語・日本文化教育関連事業報告】

## 2019 年度日本語・日本文化教育関連事業報告

Japanese Language and Japanese Culture Education (2019)

国際連携部門 教授 長友 文子  
Ayako NAGATOMO  
特任助教 山田 佳古  
Keiko YAMADA

国際化、グローバル化という言葉も当たり前ようになり、本学でも各国からの留学生の姿がキャンパスに多くみられます。本学に在籍する留学生数は、2019 年度前期 153 名でしたが、後期はさらに増え 171 名となりました。ここ数年、交換留学生が急激に増加しており、また、国費の日本語日本文化研修生も来ています。他にも、学部留学生、研究留学生、教員研修生など、様々な目的を持った留学生が増えてきました。多様な目的を持った留学生の日本語ニーズも一様ではありません。留学中に日本語力のブラッシュアップを目指している学生、卒業論文を完成させたという学生、大学院合格を目指す学生、日本語能力試験 N5 を目指す日本語入門レベルの学生、など、多様なニーズにあった授業を提供して行けるよう日本語教育では様々な工夫をしています。

それらを含め、日本語教育については、日本語教育科目、国際交流関連科目、日本文化関連の科目など合計 35 コマ開きました。

近年、日本文化に高い関心を持つ学生が増えてきています。ただ、彼らは、自国で見たり聞いたりした日本に興味を持っているだけで、その興味は漠然としているので、具体的に学生の関心を引き出すために、日本文化の各分野から専門の講師も招いて、「日本の言葉文化研究」を充実させました。

また、日本人学生と留学生との交流をもつ場として、金曜日の 3 時限目に「異文化交流会」を設けました。

日本語教育関連のイベントとしては、「第 16 回学長杯 留学生による日本語スピーチコンテスト」、「第 11 回留学生による作文コンクール—和歌山への提言—」、シンポジウム「誰ひとり取り残さない社会の実現のために—海外と日本の日本語教育・教育協力の現場から考える—」を実施しました。その他、本学留学生と国内外からの児童生徒・学生との国際交流授業なども行いました。

以下、2019 年 3 月までに実施したプロジェクトの主なものをいくつか紹介します。

### (1) 日本語クラスについて

留学生の日本語教育科目として、以下の科目を開講しました。

<日本語科目>

「日本語 I A 1・日本語 I A 2」「日本語 I A 3」「日本語 I A 4」「日本語 I B 1・日本語 I B 2」「日本語 I B 3」「日本語 I B 4」「日本語 I C 1A・B」「日本語 I C 2」「日本語 I C 3」「日本語 I C 4」「日本語 I D 1・日本語 I D 2」「日本語 I D 3」「日本語 I D 4」「日本語 II A 1」「日本語 II A 2」「日本語 II B 1・日本語 II B 2」「日本語 II C 1A・B」「日本語 II C 2」「日本語 II

## D 1・日本語ⅡD2」

上記科目では、留学生は、日本語の4技能を学びます。学期はじめに、プレイスメントテストを行い、4つのレベルに分け、学生のニーズとレベルに合った授業を行っています。

「日本語・日本事情」科目は、もともと正規学部留学生の必修科目でした。しかし、日本語の科目を履修する留学生は、正規学部留学生にとどまらず、特に近年は、海外協定大学から送られてくる交換留学生や、日本語日本文化研修留学生、学部や院の研究生、教員研修留学生など、多様な目的を持つ留学生が増え、日本語のニーズやレベルも多様化してきました。

たとえば、英語や中国語などでは、同じ学年、同じレベル、同じ目的をもつ学生が対象ですが、日本語では、レベルもニーズもレディネスも大変多様（漢字圏と非漢字圏など）なので、クラスをいくつも開く必要があります。さらに、専門科目と重なって、そのクラスを履修できない学生もいます。日本語教員と科目数が限られた現状では、そういった留学生の実情にあった、きめ細かな日本語科目を開くのは大変難しいのですが、現状で最大限、多様な留学生のニーズとレベルに対応するよう努力しています。

少ない日本語教員で、多様なレベルの学生が受講可能な時間に日本語を学べるようにするためには、どのように工夫して行くべきか、今後も大きな課題です。

## <日本語・日本文化関連科目>

「日本語日本文化研究1・2」「日本事情」「日本文化と入門ビジネスジャパニーズ1・2」

「日本文化入門1・2」「外国語としての日本語を学ぶとは」「外国語としての日本語を学ぶ（教育学部生用）」

これらの科目では、留学生は、日本語と共に日本の文化を学びます。研究テーマを決めて研究レポート作成をし、プレゼンをしたり、「和歌祭」の歴史と学びながら実際に参加したりします。また、将来日本語の教師になりたいという学生のための授業も行っており、日本人学生共に学ぶ科目もあります。

## (2) 第11回作文コンクール

旧 IER センターでは、毎年、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」、「和歌山での留学生生活から考えた日本語の社会」などを、母語と日本語で書き、世界に紹介する「作文コンクール」を開催してきたが、研究グローバル化推進機構国際連携部門でも、引き続き、作文コンクールを行っています。第11回を迎えた今回は、中国、ベトナム、オーストラリア、ブラジル、インドネシア、フランス、ロシア、韓国の8か国からの留学生18名の応募があり、次の留学生が受賞しました。

◎最優秀賞：

交換留学生（中国）李嘉璐さんの「ちょうどいい」

◎優秀賞：

交換留学生（韓国）ジョン ヨンファンさんの「明晰夢を見る間に必要なことは」

交換留学生（中国）干 洪麟さんの「僕が目を見た和歌山」

◎審査員賞：

日本語・日本文化研修留学生（ブラジル）マルティス ルジミラさんの「憧れの日本」

日本語・日本文化研修留学生（ロシア）のソロビヨフ ドミトリさんの「和歌祭」

◎特別賞：

交換留学生（中国）黄 令卿さんの「桜橋」

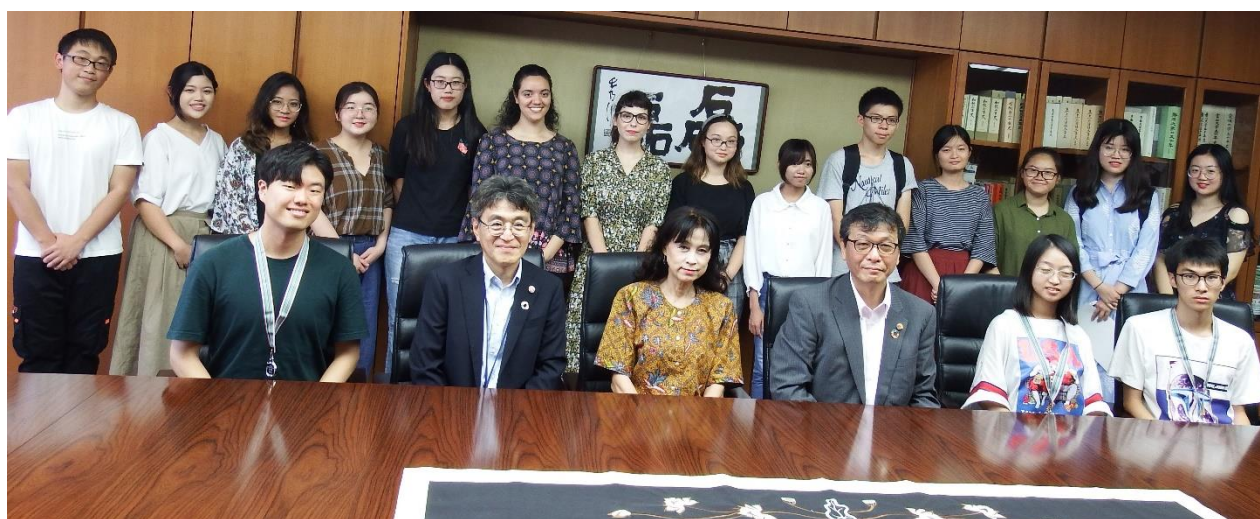
交換留学生（フランス）レベッカ・モリセイさんの「和歌山大学の猫たち」

◎努力賞：

日本語・日本文化研修留学生（中国）楊 旺麗さんの「日本でのお風呂初体験」、日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）ミシェル シンタベラさんの「御馳走様でした!」、私費学部留学生・経済学部（中国）殷 思懿さんの「部活について」、交換留学生（中国）趙亜丹さんの「和歌山と恋しよう」、交換留学生（中国）司 永偉さんの「ご縁あり和歌山とであい」、交換留学生（中国）劉夢真さんの「変わっていく勉強スタイル」、交換留学生（オーストラリア）タン メリッサさんの「和大の留学志望者へ」、交換留学生（中国）鞠 曉丹さんの「和歌山との出会い」、交換留学生（ベトナム）のレ ゴック ジェップさんの「これは新品ではないか」、交換留学生（ベトナム）のチャン ミン アイン テュさんの「時間の感覚」で気が付いたこと」

最優秀賞に輝いた李嘉璐さんは、和歌山での体験を上手な日本語で表現されていました。また、優秀賞のジョン ヨンファさん、干 洪麟さん、さらに、審査員賞、特別賞、努力賞のみなさんの作文も、それぞれ、伝えたいことが上手にまとめられ表現された、素晴らしい作文でした。

応募者の作品は、国際連携部門 HP に掲載されています。（[http://www.wakayama-u.ac.jp/ier/introduce\\_1.html](http://www.wakayama-u.ac.jp/ier/introduce_1.html)）



### （3）第17回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト

現在、和歌山県では、和歌山大学をはじめ、いくつかの教育機関で、様々な国からの留学生が学んでいます、

留学生たちの日本語学習歴や滞在歴、留学目的はそれぞれ異なりますが、彼らが日頃思っていることや感じていることなどを日本語で発表し、地域の皆さまに聴いていただくことは、彼らにとって素晴らしい経験となり、また、地域の国際交流にも貢献できるでしょう。そういった趣旨から、今年度も、12月14日に、和歌山県、和歌山市、（公財）和歌山県国際交流協会、WINコンコード、和歌山文化協会、ソロプチミスト和歌山紀ノ川の後援により、第17回「学長杯、留学生によるスピーチコンテスト」を和歌山大学で開催しました。

17回目を迎えた今回のスピーチコンテストにも、YMCA 福祉専門学校と和歌山工業高等専門学校から留学生が参加してくださいました。本学のスピーチコンテストに毎年参加いただけるのは本当にうれしいことです。今回出場された14名の留学生の国籍は、中国、韓国、アメリカ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ウズベキスタンの7か国でした。

審査の結果、学長杯に輝いたのは、和歌山大学日本語日本文化研修留学生でウズベキスタン出身のエルガシヨフ ホリミルザさん、第二位は、和歌山大学交換留学生で中国出身の藩宇飛（ハン・ウヒ）さん、第三位は和歌山大学交換留学生で中国出身の朱文程（シュ ブンテイ）さんでした。また、特別賞には、和歌山大学交換留学生で中国出身の温ショウライ（オン ショウライ）さん、和歌山大学シ日本語日本文化研修留学生でインドネシア出身のナタシャ ワンダ アリアーさんでした。WIXAS 賞に選ばれたのは、和歌山 YMCA 国際福祉専門学校交換留学生でベトナム出身のダンティ トゥさんでした。

以上の入賞者はもちろん、参加した留学生は、いずれも、自分の思いを日本語で書き、それを覚え、そして当日、心を込めて、聴衆の方々の前で表現してくれました。その経験は、留学のよい思い出になるだけでなく、将来に続く大きな自信につながるでしょう。



#### (4) 留学生の研究発表会

『日本語日本文化研究』の授業では、日本語日本文化研修留学生、交換留学生が、言葉と文化について研究を行ってきました。その研究成果の発表会を、2019年7月19日と26日2回にわたり行いました。

今年度、発表した学生は33名。学生の研究内容は冊子にして、国際連携部門に保管しています。この発表会には、地域の方々や教職員・学生が聞きに来てくださいました。



## (5) 「日本文化入門」

「日本文化入門」は、交換留学生・日本語日本文化研修留学生を対象とし、茶道、華道、着物、書道などを実際に体験しながら日本の伝統文化を理解する科目です。留学生の日本留学の目的は日本語力の向上はもちろん、日本文化に関心のある学生が増加してきたことから、2015年度より開講されました。2016年度までは前期のみの開講でしたが、受講を希望する留学生、半年のみの交換留学生が増加したことから、2017年度から前期と後期に開講しています。

## (6) 日本人学生と留学生との交流

日本人学生も留学生もお互いに交流を希望していることから、一週間に1度、教室と時間を設定し、交流したい学生が集まって自由に交流する場を設定しました。

## (7) 日本語教育関連イベント

国際化の進展に伴い、日本語は、日本国内で母語として使われるだけの言語ではなくなっています。海外でも日本国内でも、日本語を「母語として」ではなく、「外国語として」学ぶ人々が、ますます増加しています。日本にルーツをもって海外に移住した人々や海外で働く人々、また外国にルーツをもって日本で働き生活する人々や働きに行こうとしている人々など、多様な人々が、いま「外国語としての日本語」を学んでいます。

国際学生部門では、前身の国際教育研究センター時代から、地域連携事業の一環として、それら日本語学習の支援に取り組む活動との連携を深めてきました。

2017年には、外国語を母語とする子どもたちだけではなく、発達障害を持つ子どもたちも含め、「特別の指導を必要とする子どもたち」に焦点を当て、3名のパネラーの方を招いて、シンポジウムを開催しました。

また、2018年度には、海外と日本の日本語教育について考えるため、実際に現場で日本語教育や教育協力に従事してこられた方々をパネラーとして迎え、活動報告を踏まえてパネルディスカッションを行いました。

2019年度は諸事情で開催されませんでした。2017年度と2018年度の開催したシンポジウムを紹介します。

### 2017年

国際学生部門では、2017年11月23日に、シンポジウム「未来の社会を担う子供達に必要な教育について考えるー特別な教育ニーズを中心にー」を開催しました。

詳細は、以下の通りです。

#### ❖ パネラー（敬称略）のお話

##### 1 「特別なニーズを有する人達への教育＝発達障害や言語適応の問題を含む」

江田裕介（本学国際学生部門長、教育学部教授）

日本では、「特別支援教育」という言葉は、主に障がいのある子どもの教育を指すものとして用いられているが、海外ではより広い意味で用いられていると指摘され、発達障害児の教育は、言語教育という視点から、方法論を見直すことが必要で、その意味で日本語教育との共通点がある、と話された。

##### 2 「外国につながる子どもの現状＝実際の中学校の現場から」

鈴木達也（元紀の川中学校校長、本学教育実践支援室客員教授）

これまで中学校長として対応してきた「外国につながる子ども」（中国、韓国、タイ）の事例について説明され、特に、学校個々の対応には限界があること、県教委や市教委の協力が必須であることを話された。また、高校入試の対応についても言及された。

### 3 「外国につながる子どもの現状＝これまでの取り組み」

城山雅宏（和歌山県国際交流協会外国人相談室長）

在住外国人・日本語指導が必要な児童生徒のデータを示され、外国人生活相談での対応事例、交流協会で取り組んできた「こども元気ひろば」や研修・情報交換会、在住外国人ネットワーク会議、さらに、ネットを利用し日本語レッスンを行うNPOの新しい取り組みについて話された。

#### ❖ 質疑応答とディスカッション

会場からの質問とパネラーの補足説明により、問題点についての議論が深められ、今後、行政、教育機関、支援団体などの連携が重要であるということが確認された。

## 2018年

国際連携部門では、2018年11月18日に、シンポジウム「誰ひとり取り残さない社会の実現のためにー海外と日本の日本語教育・教育協力の現場から考えるー」を開催しました。

詳細は、以下の通りです。

#### ❖ パネラー（敬称略）のお話

##### 1、「ブラジルの日本語教育の体験から」

遊川章宏（元 JICA 日系社会青年ボランティア、現 JOCA 大阪職員）

ブラジルでどのような日本語教育、教育支援の活動をされたのか、また、帰国後その経験や学んだことを、日本社会でどのように活かしているかについて、体験談を交えて話された。

##### 2、「アフリカ・セネガルでの教育支援から」

新江涼加（元 JICA 青年海外協力隊、現藤戸小学校教諭）

アフリカ・セネガルで子供たちにどんな教育支援をされたのか、そして現在、小学校の教室での国際理解教育に、セネガルでの体験をどのように活かしているかについて、話された。

##### 3、「和歌山の外国人や外国にルーツをもつ子どもへの支援の現場から」

奥直子（和歌山県国際交流協会職員）

国際交流協会では、在住外国人にどのような支援をしているか。とりわけ日本語教室での日本語支援について紹介され、さらに、日本語支援が必要な子どもたちをどう支援してゆけばよいかということについて見解を話された。

##### 4、「日本語教育、日本語支援が目指すもの」

長友文子（和歌山大学教授）

多様化する留学生に対して、日本語教育はどう対応しているかという現状報告と、日本語教育、日本語支援、国際理解教育は何を目指すかについて話した。

#### ❖ 質疑応答とディスカッション

会場からの質問とパネラーの補足説明があり、問題点についての議論が深められた。



## 【3 海外短期派遣プログラム】

※今年度の海外短期研修プログラムは、新型コロナウイルスによる渡航制限により、派遣中止(フランス)や途中帰国(インドネシア)になった。

## (1)第 16回カーティン大学短期語学研修

Short-term Program at Curtin University, Australia

国際連携部門 教授 長友 文子

Ayako NAGATOMO

この研修は2003年から始まったもので、今回で第16回目目となりました。全学部の学生が参加できるこのプログラムに、今回は各学部から14名が参加しました。研修の前に、カーティン大学が準備したプレースメンテストを受け、レベルにあったクラスに入ります。

研修の日程は、2020年2月15日(土)から3月15日(日)までの1カ月間で、それぞれホームステイをしながら、大学入学のために英語を学ぶ英語準備クラスで、様々な国からの留学生と共に英語を学びます。

研修プログラムには、毎日の英語の授業に加え、学校訪問、ロットネスト島フィールドワーク、修了式、フェアウエル・パーティなどが組み込まれています。

プログラム以外にも、学生たちはそれぞれ、フリーマントルやピナクルズなど、世界遺産になっている場所や有名な観光スポットに出かけ、日本とは異なる文化に触れることができます。

前半の1週間は、経済学部の藤永先生が引率をされ、後半の1週間は長友が引率をします。

今回は、コロナウィルスで、滞在期間中に行われる後半の学校訪問が出来なくなりました。コロナのため予定通り帰国できるかどうか、大変心配しましたが、全員健康で無事帰国できました。



週末にみんなで行ったフリーマントルで



修了式の後みんなで撮影：最後の日：カーティン大学で

## <ASEAN プログラム>

### (2)第 9 回「タイ・プログラム (2020 年 2 月)」

国際連携部門 藤山 一郎  
FUJIYAMA, Ichiro

国際連携部門では、「ASEAN プログラム」として、タイ、インドネシア、ベトナムを対象に短期研修プログラムを実施している（但し、今年度ベトナムは派遣中止）。このうち「タイ・プログラム」は1回生のみが参加できる入門的な位置づけのプログラムである。

#### <概 要>

- (1) 参加学生 16 名（教育学部 1 名、経済学部 4 名、システム工学部 2 名、観光学部 9 名）  
※現地活動補助として、前年度参加学生 1 名が同行する。
- (2) 渡航期間 2 月 11 日～23 日（13 日間）
- (3) 活動内容 カセサート大学付属校、及び地方農村の初中等教育機関との交流事業  
現地調査活動・日系企業見学・社会体験活動・ホームステイ 等
- (4) 科目名 「海外体験演習（タイ）」  
※事前・事後講義「国際理解とフィールドスタディ I・II」も実施。



地方高校：校外見学时



地方高校：歓迎会全体写真



地方高校：和大学生企画運動会



地方高校：喜捨体験



カセサート大学付属校：和大学生企画



カセサート大学付属校：英語ディスカッション

## <ASEAN プログラム>

### (3)第 8 回「インドネシア・プログラム (2020 年 3 月)」

国際連携部門 藤山 一郎  
FUJIYAMA, Ichiro

「インドネシア・プログラム」は、開発問題に関するフィールド調査を重視している。ただし、今回は、新型コロナウイルスにより、渡航期間のおよそ半分にあたるところで途中帰国となった。

#### <概 要>

- (1) 参加学生 7 名 (教育学部 4 名、経済学部 1 名、観光学部 2 名)
- (2) 渡航期間 3 月 3 日～18 日 (16 日間) ※実際には 3 月 12 日に帰国
- (3) 活動内容 ガジャマダ大学、ビナ・ヌサンタラ大学との合同社会体験・調査活動  
JICA 国際協力事業見学、日系企業見学、ホームステイ 等
- (4) 科目名 「海外体験演習 (インドネシア)」

※事前・事後講義「国際協力実践演習 I・II」も実施。

※帰国後、ビナ・ヌサンタラ大学とはオンライン調査発表を実施した。



# <ASEAN プログラム>

## (4) 第 5 回「3 大学合同教育プログラム (2020 年 2 月)」

国際連携部門 藤山 一郎  
FUJIYAMA, Ichiro

このプログラムは、カセサート大学 (タイ)、ガジャマダ大学 (インドネシア)、和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3 大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである (今回の幹事校はカセサート大学)。3 大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

### <概要>

- (1) 参加学生 6 名 (教育学部 1 名、経済学部 1 名、システム工学部 1 名、観光学部 3 名)
- (2) 渡航期間 2 月 24 日～28 日 (5 日間)
- (3) 活動内容 テーマに基づいて幹事校が提供する施設見学・フィールド・ワークの実践、合同発表・議論 等
- (4) テーマ 「Thinking about Sustainable Development in Thailand」

「タイで持続可能な開発を考える」第5回3大学合同プログラム活動報告  
REPORT OF THE 5TH "THREE JOINT UNIVERSITIES EDUCATIONAL PROGRAM" "THINKING ABOUT SUSTAINABLE DEVELOPMENT IN THAILAND"

(1) 題名  
『バンコクの跡』の持続可能な発展のあり方は?—環境・教育・ビジネスの3つの視点から考える—  
A case study on the stage of sustainable development in the Lump of Bangkok from the perspectives of environment, education and business.

(2) プログラム実施の経緯・目的  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(3) 持続可能な開発の課題・課題方法  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(4) 活動の振り返り  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(5) 課題の発見・発見方法  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(6) 持続可能な開発のアクション  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(7) 課題の発見・発見方法  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(8) 持続可能な開発のアクション  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(9) 課題の発見・発見方法  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(10) 持続可能な開発のアクション  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(11) 参加者リスト  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。

(12) 謝辞  
このプログラムは、持続可能な開発 (SDGs) の観点から、タイのカセサート大学、インドネシアのガジャマダ大学、日本の和歌山大学が持ち回りで幹事校となり、3大学の学生と教員による異文化交流と地域の発展に関する共同学習をおこなう短期研修プログラムである。今回の幹事校はカセサート大学である。3大学の学生が合同でフィールド・ワークを実践し、課題の発見や解決策の提示をおこなう。



↑カセサート大学オリエンテーション↓



←グループワーク



エコパーク  
野外調査→

帰国後の事後研修で作成した調査結果 (ポスター展示)

## 【 4 その他交流事業】

## (1) 多言語サロン

多言語サロンは、留学生が自分の国や地域について、また文化・習慣に加えて自身の母語を教える講座です。講座受講を通して日本人学生や教職員の異文化理解を促進し、相互交流の機会を提供しています。(年2回開催 6-7月・11-12月 各クラス週1回 全6回講座)

	言語	担当留学生氏名	出身国	延べ人数
前期	英語	タン メリッサ	オーストラリア	39
		クァウ・エイブラハム	ガーナ	6
	韓国語	ジョン ヨンファ	韓国	31
		アン ソユン	韓国	34
	インドネシア語	グラセラ	インドネシア	15
	フランス語	ロマン エデルマン	フランス	18
	ベトナム語	ホアン マイ クイン	ベトナム	10
中国語	チョウ アタン	中国	6	
後期	英語	ブラウン ダニエル エリザベス	イギリス	38
	韓国語	イ チャンミン	韓国	21
	インドネシア語	ヌンニタ ラティファー アズハル	インドネシア	24
	フランス語	シゾン ナヨミ	フランス	21
	中国語	チョウ マンマン	中国	15
	ウズベキスタン語	エルガジョフ ホリミルザ ラフマトッフ ウグリ	ウズベキスタン	11

フランス語クラスの様子



中国語のクラスの様子



## (2) 留学生地域交流（派遣・受入）

和歌山大学では、留学生と地域の方々との国際交流を目的に派遣活動や大学への受入活動を行っています。主な派遣先は県内の小中学校及び高等学校で、留学生は出身国・地域の紹介やグループワークで会話を楽しみ相互交流を深めています。

実施日	学校名/受入・派遣	留学生出身国・地域	参加人数
2019年6月12日	開智中学校 (大学受入)	中国、インドネシア、ブラジル、マレーシア、ロシア、ベトナム、韓国、フランス、オーストラリア	中学生 42名 留学生 40名
2019年10月21日	向陽高等学校 (大学受入)	マレーシア、フランス	高校生 30名 留学生 3名
2019年11月26日	藤戸台小学校 (大学受入)	中国、インドネシア、ウズベキスタン	小学生 30名 留学生 5名
2019年12月9日	津木小学校 (留学生派遣)	中国、インドネシア、ウズベキスタン	小学生 12名 留学生 5名

開智中学校との交流の様子



藤戸台小学校との交流の様子





## 2019年度 国際連携部門年間事業実績一覧

（※海外短期派遣プログラム除く）

	実施日・期間	イベント
1	4月3日	4月期新入留学生開講式及びオリエンテーション
2	4月18日	日本文化入門A（和菓子）
3	4月19日	自転車目録贈呈式（キワニス）
4	4月23日	新入生留学歓迎交流会
5	4月25日	日本文化入門A（つまみ細工）
6	5月15日	交換留学春派遣説明会
7	5月24日	（学内交流イベント）おしゃべり交流会
8	5月28日	（学内交流イベント）ランチ交流会
9	6月12日	開智中学校との留学生交流プログラム
10	6月21日	海外危機管理セミナー
11	7月3・10日	留学生によるお国紹介
12	7月4日	日本文化入門A（交流茶会）
13	7月5日	日本文化入門A（日本の伝統的な遊び）
14	7月9、23、30日	留学生の発表
15	7月11日	山東師範大学見学ツアー
16	7月12-19日	日本文化入門B（書と水墨画）
17	7月16日	日本の伝統文化と武士道
18	7月17日	南加和歌山県人会子弟と交流会プログラム
19	7月18日	日本文化入門A（生け花展）
20	7月19、26日	留学生による研究発表会
21	7月19日	交換留学報告会
22	8月7日	留学生による作文コンクール表彰式
23	8月9日	交換留学生のフェアウエル・パーティ
24	9月7-11日	TOEICスコア・アップ講座
25	9月13日	カザフ国際関係外国語大学教員来学
26	9月19日	日研生修了式
27	9月27日	10月期新入留学生開講式及びオリエンテーション
28	10月17日	日本文化入門A（生け花展）
29	10月17日	新入留学生歓迎交流会
30	10月21日	向陽高校生徒と留学生の研究発表交流会
31	10月24日	日本文化入門A（つまみ細工）
32	11月7、8日	ロシア人日本語履修大学生（日露青年交流センター）との交流
33	11月12、14日	学生交流協定による交換留学ガイダンス
34	11月13、20日、 12月4日	留学生によるお国紹介
35	11月17日	留学生見学旅行（神戸）
36	11月26日	藤戸台小学校との留学生交流プログラム
37	12月5日	日本文化入門A（和菓子）
38	12月10日	（日本人学生対象）青年海外協力隊募集説明会
39	12月14日	第17回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト
40	12月25日	日本文化入門A（日本の伝統的な遊び）
41	1月9日	日本文化入門A（交流茶会）
42	1月10-17日	日本文化入門B（書と水墨画）
43	1月28日	中南米海外移住者子弟との交流プログラム
44	1月29日	学研災付帯海外留学保険説明会
45	2月10日	交換留学生のフェアウエル・パーティ
46	2月20日	和歌山地域留学生等交流推進協議会
47	3月13日	教員研修留学生修了式

【国際連携部門教職員一覧】（2020年3月31日現在）

部門長 井伊 博行(システム工学部 教授)  
副部門長 長友 文子(国際連携部門 教授)  
副部門長 藤山 一郎(国際連携部門 准教授) ※編集担当  
山田 佳古(国際連携部門 特任助教)

国際交流課

課長 鹿野 正雄  
係長 辻野 利明  
主任 楊 春春  
ジェイコブソン久美子  
程 奈緒子  
楠原 英莉  
佐藤 理恵子

